

3-②. 市民活動の場の支援(CANVAS谷町)事業

－ 2013年4月のオープンから丸5年。ボラ協らしい民設民営の拠点を運営！

2013年4月よりCANVAS谷町（大阪市中央区）を管理・運営。CANVAS谷町では、フレックスデスク8団体、コーディネーションデスク2団体が活動した。CANVAS谷町の自主財源でもある貸会議室の平均稼働率は、小会議室48.5%、大会議室43.1%（大会議室半分利用含む）、たたみスペース23.8%、情報交流エリア14.1%であった。

1. CANVAS谷町を拠点として活動する団体

CANVAS谷町を拠点として活動する団体に、フレックスデスク、コーディネーションデスク、レターボックス、ロッカー小・中・大を、年度または半期で貸出している。

（1）フレックスデスク

特定の事務所を持たず、週数回程度の事務所作業や活動を進める「事務所機能」を求める団体にとっての利便性をもったデスクを提供。団体同士が「事務所」をシェアしながら、拠点に集まる人、団体や支援者と出会い、共に資源や知恵を共有できる場を作っている。

■フレックスデスク利用団体一覧（8団体・50音順）

特) 大阪市計量協会、大阪手びきの会、関西音声サポート、関西広域避難者支援センター（2018年3月まで）、創作サポートセンター、地球コード研究会、日本パークレンジャー協会（2017年9月まで）、まるっと西日本（東日本大震災県外避難者西日本連絡会）

（2）コーディネーションデスク

フレックスデスクよりも利用頻度が高く、活動・事業でコーディネーションや電話相談を行なう団体に対して、デスクを提供している。

■コーディネーションデスク利用団体一覧（2団体・50音順）

大阪セルフヘルプ支援センター、特) キャンピズ

（3）レターボックス

対外的な連絡先（郵便受）を持ちたい団体に対して、レターボックスを貸し出している。

■レターボックス利用団体一覧（26団体・50音順）

特) いくの学園、ACoA Stories／大阪グループ、ACODAローゼズ、大阪交通遺児を励ます会、特) 大阪市計量協会、大阪セルフヘルプ支援センター、大阪手びきの会、大阪帆船と国際交流の会（SAIL' O'）、大阪筆記通訳グループ「ぎんなん」、おはなしグループ綿の花、かなしみぼすと、関西音声サポート、関西広域避難者支援センター（2018年3月まで）、特) キャンピズ、くつろぎステーションつばさ、コーポラティーバまいど、創作サポートセンター、地球コード研究会、なにわ語り部の会、特) 日本パークレンジャー協会（2017年9月まで）、福祉カウンセリング協会、プチ大阪兄弟姉妹会、まるっと西日本（東日本大震災県外避難者西日本連絡会）、宮城復興支援センター、レインボーフェスタ！実行委員会、ワーキング・ウィメンズ・ネットワーク

（4）ロッカー

CANVAS谷町を活動の拠点とし、活動・事業で荷物の保管が必要な団体に対しロッカーを貸し出している。

■ロッカー利用団体一覧（22団体・50音順）

ACoA Stories／大阪グループ、ACODAローゼズ、大阪交通遺児を励ます会、特) 大阪スタタリングプロジェクト、大阪セルフヘルプ支援センター、大阪手びきの会、大阪筆記通訳グループ「ぎんなん」、かなしみぼすと、関西広域避難者支援センター（2018年3月まで）、ギャマノン、特) キャンピズ、くつろぎステーションつばさ、コーポラティーバまいど、手話サークル「つくし」、創作サポートセンター、地球コード研究会、中卒・中退の子どもをもつ親のネットワーク、なにわ語り部の会、特) 日本パークレンジャー協会（2017年9月まで）、福祉カウンセリング協会、プチ大阪兄弟姉妹会、まるっと西日本（東日本大震災県外避難者西日本連絡会）

2. CANVAS谷町で実施された様々な動き

（1）CANVAS谷町のデザインチーム「たにまちっく」の活動

「CANVAS谷町」に全国から集まる市民活動情報を分かりやすく来館者に伝えることや、心地の良い空間を作り、さまざまな人の居場所にする、さまざまな団体、人の橋渡しをすることを目的として活動をしているチーム。館内のレイアウトを検討やCANVAS谷町に市民が集うきっかけづくりとなるイベント企画開催の検討を行った。

（2）市民活動スクエア「CANVAS谷町」ウェルカムボードの作成・設置

『ビルの2階まで来たものの、「CANVAS谷町」、会議室がどこにあるか分からない』という声が多くあった。そのことを受け、たにまちっくチームの協力により、入口にウェルカムボードを作成・設置した。



▲ウェルカムボードでお出迎えます。

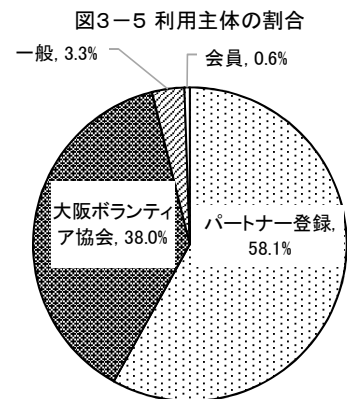
3. CANVAS谷町の全体的利用状況

人と人がつながったり、市民活動に関する情報を入手できることはCANVAS谷町の重要な機能のひとつである。情報交流スペースでは、市民活動に関するイベント、ニュースレター、ボランティア情報などを提供した。

同時に、NPO支援の一環として印刷機や紙折り機などをワークスペースに設置しているが、印刷機・コピー機の利用は482件（前年度比40件減）であった。

（1）貸会議室の月別稼働率と利用主体別割合、利用者数

貸会議室はNPO支援メニューのひとつであるとともに、CANVAS谷町の大きな自主財源でもある。利用主体別に利用実績を見ると、パートナー登録団体が58.1%、大阪ボランティア協会が38.0%を占めた（図3-5）。一般利用は3.3%、協会の個人会員利用が0.6%である。年間の平均稼働率は、小会議室48.5%、大会議室43.1%（大会議室半分利用含む）、たたみスペース23.8%、情報交流エリア14.1%であった。



2013年に市民活動スクエア「CANVAS谷町」がオープンして以来、利用件数および収益も右肩上がりである（図3-6、協会利用負担分を含む）。2017年度は前年比21万円増加の約424万円の収入であった。収入は増加しているものの、家賃を補填するまでの財源には成長しきれていない現状である。

